



# 大学コンソーシアムひょうご神戸設立5周年記念連続講演会 シリーズ講演会 震災と復興

## 関西国際大学

### 人と人とのつながりの大切さ ～東日本大震災から学んだこと～

東日本大震災の特徴はこれまでの想像を超えるほどの大きな「喪失体験」といえます。



被災住民の方は大切な家族を失い、友人や地域のコミュニティを失い、いままで慣れ親しんできた土地を失い、それまで健康ですがすがしかったすばらしい自然環境を失いそして職を失いました。それだけではなくいま避難所に暮らしていても、一向にこの先なにをどうしたらよいのかなにもみえない状況です。

国や自治体の復興の方針もいまだに明確にならず、受身のままではなにも進展しないといういらだちも隠せません。仮設住宅に入っても、今度はコミュニティがさらに分断され、孤立した生活を強いられることとなります。しかも2年間の期限付きというストレスもあります。かといって避難所にいつまでもいるわけにはいきません。提供されるお弁当を食べ続けることで血圧があがり、持病の悪化も懸念されます。このような状況に対してわたしたちができることは何でしょうか？

まず想起されるのは、ナチの強制収容所を体験したV. フランクル(1905~1997)のことです。自分もいつガス室に送られるか分からない過酷な状況の中で、冷静に自己分析をし、周囲を観察しました。そしてロゴセラピーを作り出しました。そこで重視したのが「意味への意志」です。なんらかの生きる目的を持ち続けた人間は、この過酷な体験を生き延びる力を得たのです。そしてそのために3つの価値、すなわち創造価値、体験価値そして態度価値が重要であることを見出しました。

日々の生活の中でそれらを実現しようとするのが生きる意味をわたしたちに教えてくれます。どんな過酷な状況の中でも、できることに手を出して行くのです。そしてなにかを創造し、あたらしい体験をしていくのです。その中でおのずと自己の態度も形成されていくのです。その場合にわたしたちは人と人とのつながりが大きな役割を演じていることに気づきます。これこそがいまの日本の社会をつくりなおして行く上で、必要なものと考えます。

## 11月20日(日) 13:30~15:00

講師：渡邊直樹(わたなべ なおき) 関西国際大学人間科学部教授

会場：関西国際大学 尼崎キャンパス (JR尼崎駅徒歩5分)

対象：興味のある方どなたでも

参加費：無料

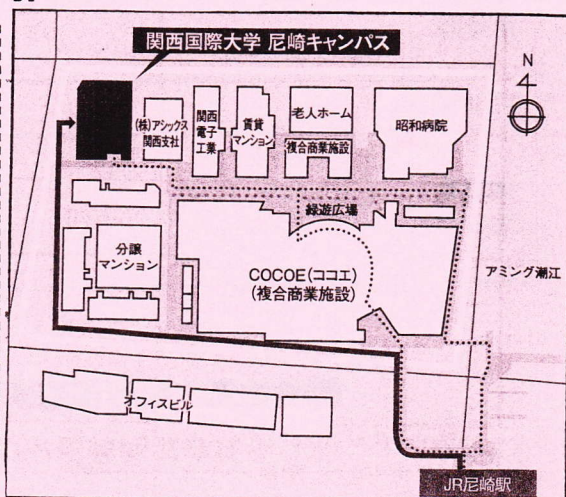
申込み：裏面の申込書にご記入の上、11月18日(金)までに

FAX 06-6496-4321 又は、Eメール exc@kuins.ac.jpにてお申込下さい。

#### 【講師略歴】

1943年東京生まれ。1963年9月から5年間ドイツ・ハイデルベルグ大学で社会学を学び、マギスター(修士)資格を取得し帰朝。1982年3月弘前大学医学部卒業、同年6月より聖マリアンナ医科大学精神療法センター勤務、2003年3月に21年間の勤務を経て助教授として定年退職、同年4月より聖マリアンナ医科大学客員教授、同年6月より青森県立精神保健福祉センターに勤務(精神保健医長)、2004年4月より同所長。2008年4月より関西国際大学人間科学部教授、現在に至る。

学会は森田療法学会理事、日本ストレス学会評議員、日本催眠学会理事など。主な臨床・研究活動としては摂食障害、人格障害の治療、平成9年からの秋田県由利町における自殺予防活動を続けており、平成15年からは青森県でも活動を行い、現在は国全体を視野に入れた自殺予防活動を行っている。



問合せ先 関西国際大学 教育推進課 TEL 06-6496-4128